Column Entertainment Information Scoop Topic

MJ オーディオ情報

老舗トランスメーカーとキットメーカーの勇退

ここ数年，商店街を歩いていると，半世紀ほども続いていた老舗の店がぽつぽつ廃業するのを見かけて，気になっていた．同じ商店街を10年以上も歩いていると，飲食店，食料品店，古書店，古美術店などが入れ替わっていくようすがよくわかる．オーディオ界も例外ではなく，大メーカーでは1980年代からリストラが進んでいる．

7月，永年「タンゴ」ブランドで，オーディオ関係者に親しまれてきたトランスメーカー，平田電機製作所が廃業を決めた．昭和21年に創業以来，今日にいたる54年間，オーディオ機器そして真空管アンプファンに高品質出力トランス，電源トランス，コイルなどを製造・販売していたが，10月20日で営業を終結する．

誤解なきよう付け加えるなら，倒産ではない．高齢化した従業員，後継者問題，オーディオ産業自体の衰退化が撤退の大きな理由である．

PL 法施行後，特注トランスを受注しやすくなったこともあり，本誌執筆者のさまざまな要求を受け入れてもらった．バリエーションのある製作記事が可能となったのも，やはりタンゴトランスに負うところが大きかった．突然のニュースに「タンゴ・ショック」ともいえる衝撃が業界を走った．

そして同じくクラフトオーディオ界を支えてきた昭和31年創業の三栄無線も，この8月31日をもって廃業する．やはり平田電機製作所と同じく，後継者問題，オーディオの売れ行きを見切っての決断である．同社カタログの「自作で我が道を行く」というコピーに示されるように，オリジナリティあふれるキットが電気産業界における人材をどれほど育て上げてきたか，その功績は計り知れない．

また製作記事に使われた部品類をとりまとめての通販や，キットのメンテナンスにも対応してきた．

この両社に共通するのは，多様化するニーズに対する多品種少量生産，深い知識と経験に基づいた相談やアフターサービスである．しかし現在の経済最優先の日本社会では，決してペイしない非効率的経営となってしまう．それは，日本人はサービスに対する報酬という概念が希薄なのも一因である．しかしながら老舗の両社が育ててきたクラフトオーディオの芽は確実に育っている．

かつて両社もラジオ産業という種子から始まって，病害虫や天候不順に強い系統が選別され生き残るように時間をかけてブランドが確立され，営業してきた．しかし，やがては生命は寿命を全うする．それが自然の摂理である．ゆるやかな生物曲線，まるでヴィンテージ真空管アンプの周波数特性のように，静かに終息する．

真空管アンプ関連の国内需要は，あるユーザー層に行き渡れば滞ってしまう状況にある．将来展望としては，海外への輸出の有無がひとつの大きなポイントになる．多くのキットメーカー，それに真空管パーツ類は国内供給をメインとしており，輸出に対応していないところがほとんどである．しかし欧米では日本製キットは高く評価されており，英文の組み立て説明書を付けて通販すれば相応の需要が見込まれる．たとえば欧米のオーディオジャーナリズムは勇んで紹介してくれるだろう．言葉の問題はあるものの，インターネット通販の活路が開き始めている今日，いかに優秀な日本製キット，パーツ類を輸出することができるか，これが今後のクラフトオーディオ界の盛衰の鍵をにぎっている．（渡辺）